

CITATION: Liu J, Wang LN. Gamma aminobutyric acid (GABA) receptor agonists for acute stroke. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2013, Issue 2. Art. No.: CD009622.
DOI: 10.1002/14651858.CD009622.pub2..
CRG名: Stroke Group.

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 11 September 2012
Clib issue No.;N/U: 2013 Issue 2; Update

アブストラクト

背景: γアミノ酪酸(GABA)受容体拮抗薬は、梗塞サイズの縮小および機能的転帰において神経保護効果を有することが、脳虚血の動物モデルで示されている。しかし、GABA受容体拮抗薬には鎮静作用があり、昏迷の潜在的风险があり、急性脳卒中での幅広い応用が制限されている。

目的: 急性脳卒中の治療におけるGABA受容体拮抗薬の有効性及び安全性を明らかにすること。

検索戦略: Cochrane Stroke Group Trials Register(2012年1月)、Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL)(コクラン・ライブラリ2012年第1号)、MEDLINE(1949~2012年3月)、EMBASE(1980~2012年3月)、CINAHL(1982~2012年3月)、AMED(1985~2012年3月)、および11件の中国のデータベース(2012年3月)を検索した。さらに公表試験、未公表試験、進行中の試験を特定するために、進行中の試験の登録、参照文献リスト、関連性のある学会議事録を検索し、著者および製薬会社に問い合わせた。

選択基準: 急性脳卒中患者(脳卒中発症後12時間以内)を対象としてGABA受容体拮抗薬とプラセボを比較検討したランダム化比較試験(RCT)のうち、死亡または自立機能障害、機能的自立度、および有害事象をアウトカムとしたものを選択した。

データ収集と分析: 特定した記録の表題および抄録を2名のレビューアが別々に審査して研究を選択し、条件を満たすデータを抽出して正確性を照合し、方法論的質を評価した。

主な結果: 3,838例の患者を対象とした5件の試験を選択した。選択した試験の方法論的質は全般的に良好であり、バイアスリスクは低かった。3ヵ月目の時点の死亡および自立機能障害を指標としてクロルメチアゾールとプラセボを比較した4件の試験では、有意差は認められなかった[リスク比(RR)1.03、95%信頼区間(CI)0.95~1.11]。1件の試験では、これと同じアウトカムを指標としてジアゼパムとプラセボを比較した(RR 0.94、95% CI 0.82~1.07)。広範囲前循環症候群[total anterior circulation syndrome(TACS)]のサブグループ解析では、クロルメチアゾール群の方が機能的自立度の割合が高かった(RR 1.33、95% CI 1.09~1.64)。クロルメチアゾール群で多くみられた有害事象は、傾眠(RR 4.56、95% CI 3.50~5.95)および鼻炎(RR 4.75、95% CI 2.67~8.46)であった。

レビューアの結論: 本レビューでは、急性の虚血性または出血性脳卒中患者の治療にGABA受容体拮抗薬(クロルメチアゾールまたはジアゼパム)を使用することを支持するエビデンスは得られなかった。サブグループ解析に基づくと、TACS患者の機能的自立度の改善においてはクロルメチアゾールが効果的と思われたが、この結果の解釈には慎重な注意が必要である。さらなる確証を得るためには、TACS患者の大規模なサンプルを用い、より適切にデザインされたRCTが必要である。しかし、クロルメチアゾールの投与に関連して、傾眠および鼻炎の有害事象が多くみられる。

平易な要約(Plain language summary)

急性脳卒中に対するγアミノ酪酸(GABA)受容体拮抗薬

GABA受容体拮抗薬は神経保護薬の一つで、急性脳卒中の治療において脳の保護に役立つと考えられます。この種類の薬剤にはジアゼパムやクロルメチアゾールがあり、鎮静薬として数十年間使用され、脳卒中の動物モデルにおいて効果的であることがわかっています。しかし、昏迷の潜在的リスクがある急性脳卒中患者に対して、GABA受容体拮抗薬の鎮静作用は有害かもしれません。このレビューでは、3,838例の患者を対象とした5件の試験を選択し、急性脳卒中患者に対するGABA受容体拮抗薬の利益と安全性を評価しました。結論として、急性の虚血性または出血性脳卒中患者の治療にGABA受容体拮抗薬を使用することを支持するような、説得力のあるエビデンスは見出せませんでした。クロルメチアゾールを投与することで最も多くみられた有害事象は、眠気と鼻炎でした。

(監訳 江川 賢一)

翻訳公開日: 2014年 6月 24日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。